

街のオアシス再発見

第6回



緑あふれるキャンパス 北海道大学(札幌市)

森林インストラクター

小沢 信行 (おざわ のぶゆき)

十勝管内足寄町出身。1978年北海道新聞社に入社。記者として函館、釧路、小樽などで勤務。編集委員、論説委員などを勤め2017年退職。日本森林インストラクター協会会員。道新文化センターで樹木観察の講師を務める。著書に「こうしてできた北の銅像」。

「エルム（ハルニレ）の学園」と呼ばれる北海道大学には、歴史と風格を感じさせるハルニレの高木が随所に立ち並んでいます。春はキタコブシやエゾヤマザクラが咲き、秋にはイチョウやカエデが色付く自然豊かなキャンパスです。夏は中央ローンを流れる小川で子どもたちが水遊びに興じるなど、大都市札幌の中心部にある大学とは思えない癒しの空間となっています。



子どもたちが遊ぶ中央ローン

イチョウのトンネル

北13条にあるイチョウ並木の見ごろは10月下旬。全長380メートルの両側に70本植えられています。岩沢健蔵氏の「北大歴史散歩」（北海道大学出版会）によると、1939年の植栽ですが、混在していたサクラが枯死しイチョウだけになったのは1945年です。

同書が出版されたのは1986年。「この黄色い木々が学内出版物の表紙を飾ったりするようになったのは、そんなに古くからのことではない。せいぜい一〇年くらい前からではなかろうか」と書いています。

それから枝を横に伸ばし、“黄色いトンネル”が出来上がると、学外からも注目を集めるようになりました。新聞などが報じ始めたのは30年ほど前。今では札幌を代表する紅葉の名所となっています。



トンネル状になったイチョウ並木



色付いたイチヨウの実

イチヨウは誕生の歴史が古く、世界各地で化石が見つかっています。氷河期に地球から姿を消しましたが、中国南部で生きながらえ、日本に持ち込まれたのは700～800年前。

イチヨウの葉が鴨の水かきに似ており、中国の宋では鴨脚を「イーチャオ」と発音していたことから、日本でイチヨウという呼び方に変化しました。「銀杏」というのは、実が杏状で白色の光沢があるからです。中国名の「公孫樹」は、祖父（公）が植えた木は孫の代になるまで実らないという意味です。実際は20～30年で実が付きます。

雌雄異株で、雌株につく実がギンナン。実は刺激臭があり、触れるとかぶれることも。落ちて異臭を放つことから最近、街路樹は雄株のみ植えられるケースが目立っています。北大の並木はほぼ半数が雌株のため、秋には実がたくさん付きます。

ギンナンはせきどめ、たんの除去に効果があるといわれています。ただ、大量に食べると、腹痛やけいれんなどの食中毒を起こすことから、幼児には与えない方がいいようです。

葉のエキスは脳血液の循環を改善し、記憶力、集中力の低下を防止するといわれています。フランス、ドイツなどでは医薬品となっており、日本では機能性表示食品として商品化されています。

小説に登場したキハダ

中央ローンのキハダは三浦綾子さんの小説「続氷点」（角川文庫）に登場します。「クラーク博士の胸像の斜めうしろに、キハダの大樹がある。その根本に白いハンカチを広げて陽子はすわった」「陽子はキハダの幹にそっと手をふれて微笑した。無数にみぞのある荒い幹肌である」

キハダは沢沿いの林内に自生しています。中央ローンは豊平川の扇状地の末端で、末端から湧き出た水がふんだんに流れていたところでした。水分の多い土壌が生育に適していたのでしょう。

灰黒色で「無数にみぞのある荒い幹肌」ですが、その外皮をはぐと、内皮は黄色くなっています。この黄膚が名前の由来です。雌雄異株で黄緑色の小さな花が咲くミカン科の高木。雌株に付く黒い実を割ると、柑橘系の香りがします。

内皮の成分であるベルベリンは漢方薬に配合され、胃腸薬などに使われています。また内皮は黄色の染料になるほか、虫よけの効果もあります。



小説『続氷点』に登場したキハダ

長野県では実を餅やあめにして食べていました。キハダを栽培し、果汁エキスを使ったあめを販売している店もあります。



黒いキハダの実

母校に新渡戸の胸像

ポプラ並木脇の花木園に新渡戸稲造の胸像が立っています。新渡戸は北大の前身、札幌農学校の2期生で、札幌農学校、京都帝国大学、東京帝国大学の教授を歴任し、東京女子大学初代学長、国際連盟事務局次長を務めました。日本人の精神を英文で紹介した「武士道」は世界各国で翻訳されました。

こうした功績をたたえようと、北大で胸像建設が動きだしたのは1995年。5千円札の肖像に新渡戸が採用されていた時代です。故郷の盛岡や東京にはすでに銅像が立っていましたが、母校には顕彰するものがありませんでした。

丹保憲仁元北大総長の「北大にも博士の胸像を建立」(「新渡戸稲造研究」第6号)によると、総長就任5ヵ月後の同年10月、学士院会員の石塚喜明名誉教授から



花木園にある新渡戸稲造の胸像

要望を受けた丹保氏は、さっそく同窓会や学内の各部長らと相談。胸像建設を1996年の北大創基120周年記念協賛事業とすることに決定します。

同年3月に新渡戸稲造博士顕彰碑建立事業会を発足、発起人代表を堂垣内尚弘元北海道知事と決め、同窓生を中心にした募金活動を展開します。その結果、目標の1千万円を大幅に上回る3,600万円が集まりました。

除幕式は10月7日午前、創基120周年の記念式典に先立って行われました。白い幕の下から現れたのは柔らかな顔つきの胸像。台座には若き日の新渡戸が理想とした言葉「われ太平洋の懸け橋とならん」が英語で記されています。

妻メリーが残したもの

正門から入ってすぐの道の両脇に、新渡戸の妻メリーが贈ったハルニレがあります。時計台の近くにあった農学校が今のキャンパスに移転したのは1903年。当時、新渡戸は京都帝国大学の教授を務めていました。

メリーは移転に伴う校舎新築を祝い1905年、ハルニレの苗木24本を寄贈しました。現在残っている5本の高木は、「エルムの学園」を象徴するかのよう枝を大きく広げています。その下には「新渡戸夫人寄贈のハルニレ」と書かれた案内板が設置されています。

新渡戸は留学先の米国でメリーと知り合い、2人は結婚を決意します。しかし、国際結婚がまだ珍しかった時代、双方の親に反対されます。親の許しが得られないまま結婚したのが1891年。承諾を得たのは新渡戸がメリーを連れて帰国する直前でした。

同年、新渡戸は札幌農学校教授となり、1892年にはメリーが長男を出産しますが、1週間後に亡くなります。失意の異国暮らしを前向きにさせたのは、母国から届いた遺産でした。実家で老婆になるまで仕えていた孤児が残したものです。これを新渡戸が以前から構想していた夜学校のために使おうと考えたメリーは、夫に資金提供を申し出ます。

500坪(1650平方メートル)の土地と2階建ての一軒家を買取り1894年、「遠友夜学校」を開校。新渡戸が校

長となり農学校の教員や学生の協力を得て、貧しい子どもたちに無料で勉強を教えました。新渡戸が1933年に亡くなった後、メリーは夫の遺志を引き継ぎ、他界する1938年まで第2代校長を務めます。

学校は1944年に閉校しましたが、1990年にはボランティアによる自主夜間中学「札幌遠友塾」が開設されました。2005年には無料市民講座「平成遠友夜学校」ができ、大学構内の交流施設「遠友学舎」で教官らが講演をしています。

メリーが夫とともに取り組んだ教育の機会拡大は、長い年月を経た今も、正門のハルニレ同様、札幌の地でしっかりと根付いています。そして、2人に感謝するレリーフの顕彰碑が、遠友夜学校の跡地、新渡戸稲造記念公園（中央区南4条東4丁目）に立っています。



メリーが贈ったハルニレ

賢治らを歓待した総長

事務局本館の前庭にあるのは、北海道帝国大学初代総長、佐藤昌介の胸像です。佐藤はクラークの教えを受けた札幌農学校の1期生。農学校時代の1891年から39年間、組織のトップとして辣腕を振るった人物です。

銅像は本人死亡後、遺徳をしのいで建設するケースがほとんどですが、佐藤の場合は総長退任後、すぐに

学内から声が上がりました。いかに偉大で影響力が大きかったかが分かります。除幕式は1932年6月25日、中央講堂で行われ、佐藤は自らの像の前に立ち謝辞を述べました。

銅像は戦時中、金属回収令で撤去されますが1956年11月14日、北大創基80周年記念業として再建されました。

佐藤は2期生の新渡戸稲造と同じ南部藩出身で、新渡戸に対し卒業後も留学先を紹介したり、母校への就職を勧めたりしました。

同郷人に対する面倒見の良さは新渡戸だけではありません。作家の宮沢賢治みやざわけんじらも特別な計らいを受けます。花巻農学校の教員だった賢治は1924年5月21日、修学旅行で生徒を引率して北大を訪れました。

その時の様子が修学旅行の報告書として残っています。「門を入るや学生二名出迎へ講堂に案内す。此の日総長旅行出発を延期して一行を待つ。蓋しその花巻出身なるによる。即ち総長より生徒に対し一場の訓辞あり」（「宮沢賢治全集10」ちくま文庫）。

その後、生徒たちは学生食堂で菓子や牛乳のもてなしを受け、水産、農学、医学の研究施設を見学します。

総長時代は教官に厳しかったという佐藤。銅像のいかつい顔からはちょっと想像できない同郷人への歓待に、賢治はいたく感激したことでしょう。



事務局本館前の佐藤昌介像